

小学校第5学年 道徳学習指導案

1 主題名 みんな気持ちよく【内容項目C-(12)規則の尊重】

2 教材名 「気持ちよくすごすために」(自作)

3 主題設定の理由

○ねらいとする価値について

「人間」は文字通り「人の間」で生きており、常に周りの人との調和を図ることが大切である。基本的なマナーは、互いが気持ちよく、明るく生活していくために必要な潤滑油のようなものであるといえる。しかしながら、法律とは異なり罰則はないため、平気で守らない人がおり、至る所で啓発ポスターを見かけることが多い。

「罰則があれば守る」「罰則がなければ守らなくてよい」という考えではなく、そもそもマナーは何のために存在するのか考え、自分にできることを心掛けながら生活していこうとする態度を育てることは大変意義深いと考える。

○児童の実態について

高学年の児童は、基本的なマナーは大切であり、学校や学級で決められたことは守ったほうがよいことは分かっている。

本学級の児童も、事前アンケートの「マナーを守ることは大切だと思うか」という問いに全員が「はい」と答えている。その理由として「他の人に迷惑をかけるから」「嫌な気持ちになったりするから」と答えている。しかしながら「マナーを守れなかったことがあるか」という問いには83%の児童が「はい」と答えている。マナーを守らなければいけないことは分かっているが、自分の都合や周りに合わせて守らないことがあるというのが現状である。

○教材について

本資料は、「校内での過ごし方」をテーマとし、校内で騒ぐ人をなくすために罰則は必要かどうかについて考えさせるものである。話の内容を文章で示すのではなく、どのような状況なのか以下の順番で説明し、問題を把握させる。

- ① わたしの小学校では、校内で騒ぐ人が多く、静かに過ごしている人にとってはとても迷惑です。
- ② ある日、わたしがろうかの角を曲がろうとしたとき、校内を走り回っていた同じクラスのAさんがぶつかりそうになり、ヒヤリとしました。しかし、Aさんは何も言わずに行ってしまいました。
- ③ その日の帰りの会で、Bさんが「騒ぐ人には罰をつくれれば静かになるのではないか」と言いました。

マナーを守るために本当に大切なことは何か、今の自分にできることは何かを考え、実際の場面でマナーを意識して行動することができるようになるという視点で資料を活用していきたい。

○指導について

導入では、資料の内容をスライドで順番に提示して問題を把握させ、自分の判断とその理由をワークシートに記入させる。その後、ネームプレートを黒板に貼らせ、全体的な傾向を確かめさせる。

展開前段では、「罰をつくる」「罰をつくらない」ことに対する気持ちを、自分の立場と相手の立場の両方から考えさせ、再度ネームプレートを黒板に貼らせる。その後、自分とは異なる考えの友達と話し合わせることで、同じ判断でも理由が違ったり、違う判断でも理由が同じだったりすることに気付かせたい。更に、全体で話し合うことで、マナーを守るための意義や大切さについて理解を深めさせたい。展開後段では、みんなでマナーを守っていくために自分にできることは何かを具体的に考えさせることで、実際の生活場面で実践していきたいという気持ちをもたせたい。

終末では、これまでの学校生活の中で、マナーを守ることでみんなが気持ちよく過ごしている場面をスライドショーで視聴させることで、自分たちの行動に自信をもたせ、更に実践意欲を高めたい。

4 ねらい

マナーを守ることの意義や大切さに気づき、マナーを守って気持ちよく生活していこうとする態度を育てる。

5 展開

	学習活動	主な発問(○)と予想される反応(・)	指導上の留意点 <small>期待される児童の姿(教師の願い)</small>
導 入 展 開 終 末	1 マナーに対する自分たちの意識を知る。	○「マナーを守ることは大切だと思いますか」という質問で多かった答えは何だと思いますか。 ・「はい」という答えが多い。	・事前アンケートの結果を示し、マナーは守るべきものという意識をもっていることとその理由を確認させる。 ・資料中で同じ思いをもつ人物を自分に置き換えさせて資料提示につなげる。
	2 資料を見て問題を把握し、自分の考えを書く。 【書く活動①】	○「校内で騒ぐ人」をなくすために罰をつくるのとつくらないのどちらがよいと思いますか。 ・つくるのがよい。 ・つくらないのがよい。	・電子黒板で資料を提示し、問題場面を把握させる。 ・ワークシートに記入させた後、つくるのがよいと思う児童は青、つくらないのがよいと思う児童は白にしてネームプレートを机上に置かせる。
	3 自分と相手の立場で考え、話し合う。 【話し合い】 ペアでの話し合い ↓ 全体での話し合い	○罰をつくる(つくらない)ことで自分と相手はどんな気持ちになると思いますか。 【罰をつくる】 ・相手も反省するし、自分もすっきりとした気持ちになる。 ・騒ぐ人が減り、自分も相手も良い気持ちになる。 【罰をつくらない】 ・自分はすっきりしないが、相手が嫌な気持ちにならないで済む。 ・罰がなくても騒ぐ人が減ったほうがみんな気持ちいい。	・自分の気持ちと相手の気持ちという二つの視点を基にクロス表の上にネームプレートを貼らせる。 ・全体的な傾向を見て、お互いの考えに違いがあり、判断理由を聞いてみたいという気持ちをもたせる。 判断は同じでも理由や気持ちに違いがあったり、気持ちは同じでも判断が違ったりすることに気付いている。 ・ペアで意見を交流した後、全体で話し合い、再度ネームプレートの色や位置を確認させる。
	4 これからの生活について考える。 【書く活動②】	○これからの自分にできることはどんなことでしょうか。 ・周りのため自分のために進んでマナーを守る。 ・友達にも声を掛ける。 ○みんなの普段の姿を見てみましょう。	・「罰があるからマナーを守る」という考えでは根本的な解決にはならないことを押さえる。 ・事前アンケートの結果を示し、マナーを守れなかったときの気持ちと授業で考えたことを比較させる。 みんなと気持ちよく過ごしたいという気持ちが自分にもあることを知り、できることをしていきたいという気持ちをもっている。 ・普段の生活の様子を電子黒板のスライドショーで視聴させる。